

CASE 4

1 型糖尿病のあき子

学習テーマ

- 慢性疾患の子どもを受け入れるに当たっての準備や心構え、慢性疾患の子どもが充実した学校生活を過ごすための支援の方法を理解する。

- 発問（例）
1. ケースの問題点は何でしょうか。
 2. あき子が補食を保健室で摂ることについて、教員が学校教育の指導や管理の範囲を超えていると思うのはなぜでしょうか。
 3. 保護者があき子の病気を知られたくないと思うのはなぜでしょうか。
 4. あき子の学校生活を充実させるための具体的な方法は何でしょうか。

		* 発問 ○ 講師 ■ 受講生	
過 程	時 間	学 習 内 容	留意事項
導入		■自己紹介 ■アイスブレーキング 5、6人のグループでブレインストーミングを行う。 ブレインストーミングのテーマ：「病気でイメージする事項をできるだけ沢山挙げてみよう」	
展開		1. グループ討論： ○グループのなかでリーダーを決めた後、ケースの問題点を挙げるよう指示する。 ■グループリーダーのもと、自由に問題点を挙げる。 2. 全体討論 ○以下の発問をし、受講生に意見を自由に述べさせる。 *ケースの問題点は何でしょうか。 〈学級の子どもの様子〉 ・子どもたちがあき子の補食を見て「菓子を食ってる」と騒いでいる。	問題点が挙がらない場合には、子ども、養護教諭、保護者、担任、組織について、それぞれの問題を考えさせるとよい。

展開

〈養護教諭〉

- ・ 養護教諭はあき子の補食について子どもたちが騒いでいることを、担任に報告していない。
- ・ 救急処置、健康診断に追われて余裕がない。

〈保護者〉

- ・ 保護者が子どもの病気を他の人に知られたくないと思っている。

〈担任・他の教員〉

- ・ 担任や他の教員は、学校内であき子の補食や病気について理解していない。
- ・ 学校組織として、病気の子どもの支援体制がとられておらず、危機管理意識もない。
- ・ 学年主任はあき子に学校で捕食をさせることは教育の範疇を超えていると思っている。

*** あき子が補食を保健室で摂ることについて、教員が学校教育の指導や管理の範囲を超えていると思うのはなぜでしょうか。**

- ・ 学校には健康な子どもしかいないという思いこみがある。
- ・ 1型糖尿病の知識がなく、理解しようとしていない。
- ・ わざわざ特別な対応をとることへの抵抗感がある。
- ・ 他の子どもとの関連で生徒指導上の難しさがあると思っている。

病気の子どもの保護者の心情を考えられるような展開とする。

*** 保護者があき子の病気を知られたくないと思うのはなぜでしょうか。**

- ・ 特別扱いされたくない。
- ・ 知られることで差別を受けと思っている。
- ・ 周りに受け入れられるか不安がある。
- ・ 保護者自身が病気を受容していない。

より具体的な支援策がでるように促す。

*** あき子の学校生活を充実させるための具体的な方法は何でしょうか。**

以下の事項について担任、保護者、養護教諭が確認し、全教職員に周知する。

①血糖測定とインスリン注射を行う場所

過 程	時 間	学 習 内 容	留意事項
展開		②低血糖のときの対処方法ならびに補食として食べるものとその置き場所 ③友人に説明する事項（インスリン注射と低血糖やその予防のための補食の必要性など） ④本人や保護者の病気に対する思い ⑤緊急時の対応や宿泊行事などの対応	
まとめ		1. シェアリング ○参加者に討論を通じての学び、自分の考えの変化などを自由に述べさせる。 2. 慢性疾患の子どもならびに保護者の心情を配慮しながら、学校の体制づくりを行う必要性について確認する。	